



図2. オオチビマルハナノミ
(滋賀県近江八幡市産)。

て山本雅則である。なお、本調査は、滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会(委員長:小林圭介)の助成を受けて行われた。

1 ex., 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦織山, 9. IV. 2016, 7 exs., 同所, 21. IV. 2019., 2 exs., 同所, 2, V. 2019.

これまで本種は、愛知県(Yoshitomi, 2005), 京都府(伊藤, 2014),

滋賀県(甲賀市みなくち子どもの森自然館, 2016), 三重県(Yoshitomi, 2005)で記録されている。京都府レッドデータブックで絶滅寸全種とされている(京都府企画環境部環境企画課, 2015)。生息環境について、宇治市木幡池と今回、安土町の報告地点の状況から、いずれも水際の日陰の広葉樹葉からたたき網採集により得られた。なお、発生時期が短い(Yoshitomi, 2005)ことから、本種を得た2019年5月2日に織山と、翌日に隣接する箕作山の山麓の湿地や湧水地の数地点において採集を行ったが、本種を得られなかったことで、局所的な分布か、分布しても個体数が少ないと考えられる。

末筆ながら、本種を確認いただき、報告を勧められた吉富博之博士(愛媛大学ミュージアム)、滋賀県の記録をご教示いただいた河瀬直幹学芸員(甲賀市みなくち子どもの森自然館)に心よりお礼を申し上げる。

引用文献

- 伊藤建夫, 2014. オオチビマルハナノミ京都府八幡市で採集. さやばねニューシリーズ, (16): 43.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館, 2016. みなくち子どもの森の昆虫類(リスト)2016年甲賀市の自然インターネット資料室(自然観察資料集) URL <http://www.city.koka.lg.jp/secure/13709/2016%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%AE%E6%A3%AE%E6%98%86%E8%99%AB%E9%A1%9E%E7%A8%AE%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%880730.pdf> (2019年5月6日アクセス)。
- Klausnitzer, B., 2013. Monophyletische Artengruppen der ehemaligen Gattung *Cyphon* Paykull, 1799 und Beschreibung von neuen Gattungen (Coleoptera, Scirtidae). *Entomologische Nachrichten und Berichte*, 57: 255-262.
- 京都府企画環境部環境企画課, 2015. 京都府レッドデータブック2015, 京都府自然環境目録 鞘翅(コウチュウ)目. 京都府環境部自然環境保全課 URL http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/mokuroku/bio/db/insect_list.xls (2019年5月6日アクセス)。
- Pic, M., 1918. Nouveaux divers. *Melange Exotico-Entomologiques*, 29: 7-24.

- Yoshitomi, H., 2005. Systematic revision of the family Scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). *Japanese Journal of systematic Entomology, Monographic series*, (3), 212 pp., Matsuyama.
- 吉富博之, 2015. チビマルハナノミ属 *Cyphon* の解体. さやばねニューシリーズ, (17): 8-10.

(山本雅則 521-1322 近江八幡市安土町宮津 1-57)

【短報】薩摩黒島におけるケシクスイ科5種の記録

黒島は薩摩半島の南西に位置し、竹島、硫黄島とともに三島村に属する。同島の面積は約15 km²と小規模ではあるが、島の中央部には500 mを超す山々が山塊を成しており、三島村の中では森林が最も発達している(大野, 1990)。黒島における昆虫相調査は、鹿児島県立博物館を中心に行われてきたが、ケシクスイ科甲虫(以下、ケシクスイ)に関しては、これまでにアカマダラケシクスイ *Lasioidites picta* (MacLeay, 1825)のみが記録されているに過ぎない(福田・廣森, 2002; 中峯ら, 2007)。

今回、2016年および2018年の同島における調査によって、アカマダラケシクスイを含む5種のケシクスイを採集することができたので、ここに報告する。アカマダラケシクスイ以外の4種は同島ならびに三島村初記録で、そのうち1種は分布の北限記録となる。本報告内の和名および学名については、久松ら(2019)のケシクスイ類(ヒゲボソケシクスイ科・ケシクスイ科・タマクスイ科)情報サイト「CLAVICORNIAくらびこるにあ」に従った。

本調査は三島村役場の許可を得て実施し、日本学術振興会科研費(No.15K06937)の助成を受けて行われた。なお、得られた標本は全て東京農業大学昆虫学研究室で管理している。

1. ヒメヒラタケシクスイ *Epuraea (Epuraea) domina* Reitter, 1873 (Fig. 1)

1 ex., 大里, 9. III. 2018, 長野採集。

黒島ならびに三島村新記録。本種は日本および韓国にのみ分布し(Jang & Kim, 2014; Hisamatsu, 2016), 従来、日本国内では本州~琉球(屋久島, 中之島, 徳之島)から記録されている(久松, 1985; 伊藤ら, 2015; Hisamatsu, 2016)。本種はカンキツ類の花や腐敗果実に集まることが知られ(久松, 1985), 特に訪花した際、爪等で子房に傷をつけることにより果実の品質を低下させる農業害虫としての側面が知られる(長浜・河野, 1972; Jang & Kim, 2014)。本調査では腐敗したカンキツ類の果実から得られた。

2. ムナクボヒラタケシクスイ *Epuraea* (*Epuraea*) *foveicollis* Reitter, 1873 (Fig. 2)

1 ex., 大里, 9. III. 2018, 長野採集.

黒島ならびに三島村新記録. 本種は日本固有種であり (Jelínek & Audisio, 2007), これまで本州中部~琉球列島 (屋久島, 中之島, 奄美大島, 徳之島) から記録されている (Hisamatsu, 2016). 山内・久松 (2013) によれば, 本種はスギ林に特徴的な種であることが指摘されている. 本調査では腐敗したカンキツ類の果実から得られた.

3. カタバニデオキスイ *Urophorus* (*Anophorus*) *humeralis* (Fabricius, 1798) (Fig. 3)

1 ex., 大里, 9. III. 2018, 長野採集.

黒島ならびに三島村新記録. 本種は汎世界的に分布しており (Jelínek & Audisio, 2007), 日本国内からも本土のみならず琉球列島から広く記録されている (久松, 1985; 東, 2002). 本種は果実害虫として知られ (久松, 1985), 本調査では腐敗したカンキツ類の果実から得られた.

4. アカマダラケシクスイ *Lasiodites picta* (MacLeay, 1825) (Fig. 4)

3 exs., 大里, 9. III. 2018, 長野採集.

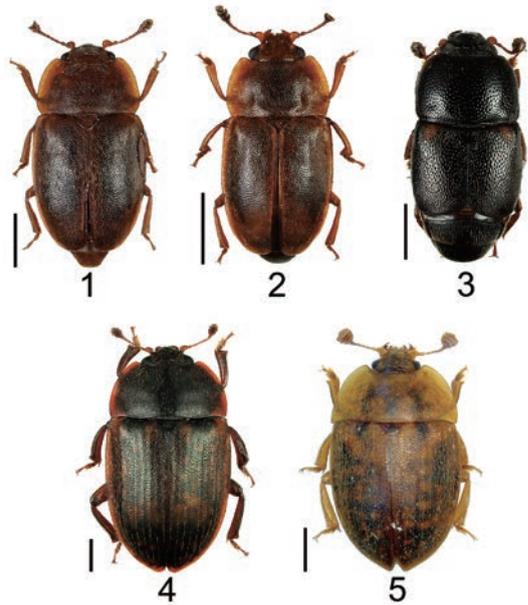
本種は本土のみならず琉球列島から広く記録されており (久松, 1985; 東, 2002), 福田・廣森 (2002) や中峯ら (2007) によって黒島から既に記録されている. 本種は腐敗した果実に集まることが知られ (久松, 1985), 本調査では腐敗したカンキツ類の果実から得られた.

5. カバイロケシクスイ *Plesiothina amplificator* (Hisamatsu, 1956) (Fig. 5)

1 ex., 片泊, 3. VII. 2016, 小島採集.

黒島ならびに三島村初記録. 本種は琉球 (屋久島~奄美大島), 台湾, マレー諸島およびネパールから記録されており (Hisamatsu, 1956; 久松, 1985; Jelínek & Audisio, 2007), これまでは屋久島を分布北限としていた. 今回の調査で黒島から分布が確認されたことにより, 本種の分布北限記録を更新した. 本調査ではピーティングにより採集された.

末筆ながら, 本報告の原稿をご校閲いただいた愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センターの久松定智博士に厚く御礼申し上げます.



Figs. 1-5. Nitidulid beetles of Satsuma-Kuroshima Island. 1: *Epuraea* (*Epuraea*) *domina* Reitter, 1873; 2: *E. (E.) foveicollis* Reitter, 1873; 3: *Urophorus* (*Anophorus*) *humeralis* (Fabricius, 1798); 4: *Lasiodites picta* (MacLeay, 1825); 5: *Plesiothina amplificator* (Hisamatsu, 1956). Scale bars = 1.0 mm.

引用文献

- 東 清二 (監修), 2002. 琉球列島産昆虫目録. 570 pp. 沖縄生物学会, 西原.
- 福田晴夫・廣森敏昭, 2002. 鹿児島県三島村黒島 2001 年 6 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (21): 27-46.
- Hisamatsu, S., 1956. The Nitidulidae of the Amami Islands, south of Kyushu, Japan (Coleoptera). *Memoirs of the College of Agriculture, Ehime University*, Sect. VI, 1 (2): 163-169.
- 久松定成, 1985. ケシクスイ科. pp. 174-197. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著. 原色日本甲虫図鑑 III, 500 pp., 保育社, 大阪.
- Hisamatsu, S.-T., 2016. A revision of Japanese Epuraeinae (Coleoptera, Nitidulidae). Part I. *Epuraea* subgenera: *Dadopora* Thomson, *Epuraea* Erichson, and *Epuraeanella* Crotch. *Zootaxa*, 4080 (1): 1-100.
- 久松定智・伊藤直哉・柏崎 昭, CLAVICORNIA. URL: <https://sites.google.com/site/nipponnokeshikisui/> (2019 年 6 月 18 日アクセス).
- 伊藤直哉・久松定智・小島弘昭, 2015. トカラ列島から採集されたケシクスイ科甲虫. さやばねニューシリーズ, (18): 52-56.
- Jelínek, J. & P. Audisio, 2007. Family Nitidulidae. In: Löbl, I. & A. Smetana (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*. Vol. 4: Elateroidea - Derodontoidea - Bostrichoidea - Lymexyloidea - Cleroidea - Cucujoidea. Apollo Books, Stenstrup, 459-491.
- 長浜正照・河野通昭, 1972. ポンカンの外観阻害要因について (第 1 報) 訪花害虫, 特にケシクスイ類の被害について. 九州病害虫研究会報, 18: 63-65.
- 中峯浩司・江平憲治・今村久雄, 2007. 鹿児島県三島村黒島における 2006 年 7 月の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告, (26): 89-101.
- 大野照好, 1990. 第一編自然と環境. pp. 1-4. 三島村誌, 1401

- pp. 三島村誌編集委員会, 鹿児島.
 山内健生・久松定智, 2013. 屋久島の原生的照葉樹林とスギ人工林におけるケシキスイ相. さやばねニューシリーズ, (4): 19-23.
 Jang, Y. S. & D. S. Kim, 2014. The first report on the winter breeding life history of *Epuraea domina* (Coleoptera: Nitidulidae) in a citrus grove in Jeju, Korea. *Crop Protection*, 55: 68-73.

(伊藤直哉 994-0016 天童市東久野本)
 (長野宏紀 590-0117 堺市南区高倉台)
 (小島弘昭 243-0034 厚木市船子 1737
 東京農業大学昆虫学研究室)

【短報】野外下におけるシマゲンゴロウの産卵基質

シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringii* は水田やため池を主な生息場所とする体長 12.5-14.0 mm のゲンゴロウ科の一種である(西城, 2001; 森・北山, 2002; 渡部, 2017). 本種は室内飼育下において, ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* などの水生植物の葉や茎の表面に産卵することが報告されているが(市川, 1984; 都築ら, 2003), 野外下における産卵基質は未報告である. 筆者は野外下において本種の雌個体がイネ *Oryza sativa* およびヤナギタデ *Persicaria hydropiper* に産卵する行動を観察したため, ここに報告する.

2019年5月17日22時58分頃, 茨城県石岡市の水田において水生昆虫類の夜間観察を行っていたところ, 本種の雌個体がイネの葉にしがみつ, 産卵管を伸ばしてイネの葉表面に産卵する様子を観察した. デジタルカメラを用いて産卵行動の撮影を試みたが, カメラのフラッシュを照射した際に雌個体が産卵行動を中止したため, 産卵中の雌個体は撮影できなかった. 産卵行動の観察後, 雌個体が産卵していたイネの葉表面を確認したところ, 本種が産卵したと思われる卵を1つ確認した(図1a). 産卵されたイネの全長は17.3 cmであり, 卵は葉身7.1 cmの葉表面(茎から4.7 cmの場所)に付着していた. 卵は透明なゼリー状の物質に覆われており, 長径及び短径はそれぞれ3.4 mm, 0.8 mmであった. 耕作者の許可を得た後, 産卵されたイネを室内に持ち帰った. イネは2 Lの水道水を加えたプラスチック容器(幅16 cm × 奥行18 cm × 高さ9.5 cm)に入れ, 孵化するまで25°C 14L 10Dの室内において保管した. 産卵から5日後に卵は孵化し, 上手(2008)に従い同定した結果, シマゲンゴロウの幼虫であることが確認された(図1b). 1齢幼虫の頭幅および体長はそれぞれ1.8 mm, 10.1 mmであった. なお, 卵および幼虫のサイズは,

ImageJを用い(Rasband, 2011), 定規とともに撮影した写真から測定した.

2019年6月22日21時23分頃, 同所において, 本種雌個体が水面に浮遊するヤナギタデの葉(葉身4.1 cm)に産卵する様子を観察した(図2a). 産卵行動を観察した後にヤナギタデの葉表面を確認した結果, 3個の卵が横一列に産み付けられていた(図2b). ヤナギタデは室内に持ち帰り, 上記と同様の条件で保管した. 全ての卵は産卵から5日後に孵化し, 卵の長径および短径は 3.28 ± 0.04 mm, 0.80 ± 0.006 mm(平均値±SD), 1齢幼虫の頭幅および体長は 1.70 ± 0.006 mm, 10.72 ± 0.20 mmであった.

水田に生息するゲンゴロウ類のうち, オモダカ *Sagittaria trifolia* やヘラオモダカといった抽水植物のスポンジ状の茎中に産卵するゲンゴロウ属では, 除草剤の散布による産卵植物の減少が個体数の減少要因の一つとして考えられている(市川, 2002). 本観察結果が示すように, シマゲンゴロウなどの水生植物の葉や茎の表面に産卵可能な種においては, イネを産卵基質として利用できるため, 産卵対象植物の密度が個体数の制限要因となる可能性は低いであろう.

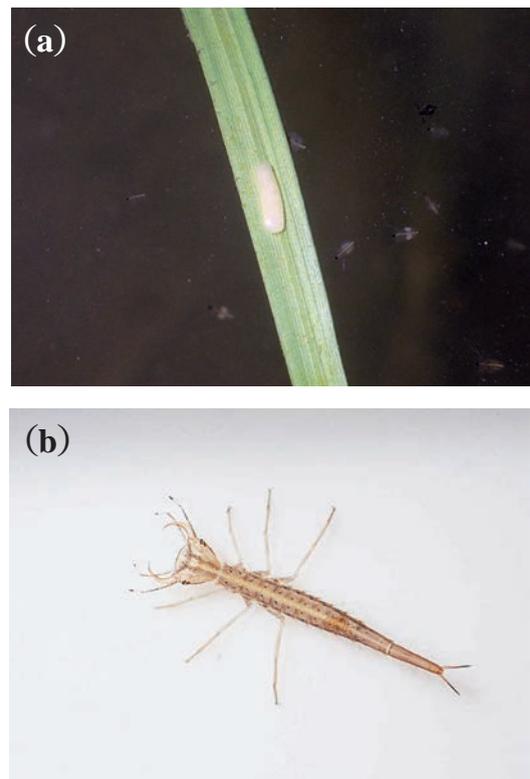


図1. イネの葉表面に産みつけられたシマゲンゴロウの (a) 卵および (b) 1齢幼虫.